

「〇〇な学級作り～基本となる活動に重点を置いて～」

牧野紘子

☆掃除の時間を思い出してみよう



<お掃除プロ制度>

- ・掃除場所に立候補し、一学期間、同じ掃除場所を担当してプロを目指す
- ・自分たちで掃除の方法を工夫する
- ・その場所を自分たちで変えても良い
例：ディスプレイをする、掃除用具を工夫する
- ・反省会ではなく、「振り返り」をする
- ・基準を決めて、掃除プロ免許証の発行

「やらされ仕事から、自分で選んだ仕事へ」

やってみたい、ここのプロになりたいと思う意欲が生まれる。

「選ぶ」ということは「責任を持つ」ということ。掃除場所への愛着がわく。

しかし、問題点も考えられる。

- ・トイレや教室など、不人気な場所は選ばれるのか
- ・一学期間同じ場所だと慣れてきて、中だるみしないか
- ・次の学期に担当が変わったら、戸惑いが生じないか

<まとめ>

前回のまとめでは、係活動の一人一役の原則を取り扱った。一人一役の原則と、お掃除プロ制度の共通点を考えてみると、私は「やりがい」だと思う。一人一役の原則では、みんなが一つは仕事を持ち、責任を持ってクラスのために仕事をするという「やりがい」、お掃除プロ制度では、自分で選んだ場所を、自分たちで考え工夫し、より良くしていくという「やりがい」である。しかし、自分なりの原則を考えるには、まだまだ文献をあたる必要があるので、引き続き文献に目を通したいと思う。

参考文献：クラスづくりの極意 岩瀬直樹先生 著

